

里親制度に理解深める

ひまわり。松本でパネルディスカッション



活動中の養育里親が体験などを語った
パネルディスカッション

松本赤十字乳児院里親支援センターひまわり（松本市元町3）は18日、松本市城北公民館（開智2）で「こどものためのさとおや制度パネルディスカッション」を開いた。養育里親らが実際の暮らしの様子や思いを紹介し、約80人が熱心に聞き入った。

（鎌倉 希）

里親を務める2人は「とてもかわいく、きっかけやマッチング 一目ぼれだった」と出の過程、家族や自身の 会いを振り返り、「大

変化、実親との交流などについて語った。秋

山富美恵さん（61）

安曇野市は、里子が

慣れるまでの葛藤にも

触れつつ3年になる生

活を「彩りを与えてく

れて（実子の巣立ち後

の）夫婦2人のときよ

り会話も笑顔も増え

た」と紹介。佐藤淳子

さん（59）池田町

変でも、楽しいことやうれしいことが何倍にもなって返ってくる。自分も成長できる」と充実感を話した。

10月の「里親月間」

に合わせ、制度について広く知ってもらおうと企画。児童精神科医で早稲田大学人間科学学術院教授の上鹿渡和宏さんが進行役を担い、マッチングや里親支援に携わるひまわりの鎌倉美枝センター長や松本児童園の一柳明美園長もそれぞれの立場で話した。